

特定の課題に関する調査(社会) 結果のポイント

- **① 社会科における基礎・基本となる知識・概念** と **② 問題解決的な学習** に焦点を当てた調査を実施

■ 社会科における基礎・基本となる知識・概念

学習や生活の基盤となる知識について、同一の指導事項について「用語から概念」/「概念から用語」、「都道府県名から地図上の位置」/「地図上の位置から都道府県名」など、異なる出題方法を組み合わせ、比較分析。

■ 問題解決的な学習

問題解決的な学習を進める上で必要な、複数の資料(写真・文献・図表・グラフ・年表・地図など)を活用し、児童生徒が主体的に問題(課題)を設定し、調べ、考え、判断し、自分の考えなどを適切に表現する力を把握。

- ペーパーテストの結果と、児童生徒の学習に対する意識や学習習慣、学校における指導の実際等に関する質問紙調査の結果との関連も考察。

【調査の概要】

- 調査対象学年 / 小学校第6学年及び中学校第3学年
- 調査実施日 / 平成19年2月22日(小学校), 1月24日(中学校)
- 調査実施学校数及び児童生徒数 / ※ 実施学級を無作為抽出
小学校 6,665人(225校), 中学校 9,394人(301校)

結果のポイント

小学校

《基礎・基本となる知識・概念》

- 47都道府県の名称と位置の正答率は約55%。47都道府県をまとめて覚えたり、白地図を使って学習した児童の正答率が高い傾向。歴史上の人物と業績の正答率は約70%。日本国憲法の三原則の正答率は85%以上。

《問題解決的な学習》

- 多様な資料の中から問題を発見・把握する力は十分に身に付いていない傾向。授業において問題解決的な学習を行っている児童の正答率が高い傾向。

中学校

《基礎・基本となる知識・概念》

- 歴史的分野では、歴史上の人物や歴史的事象の正答率は約70%。新しい用語の意味を調べたり、年表を利用したり、学習内容を関係図にまとめる学習を行っている生徒は正答率が高い傾向。
- 公民的分野では、単語としては知っていても、概念の意味を理解したり、説明する力は十分ではない傾向。新聞やテレビのニュースをよくみる生徒ほど正答率が高い傾向。

《問題解決的な学習》

- 地理的分野では、地形図や資料を読み取り、比較しながら、分かったことをまとめる力が十分に身に付いていない傾向。

【都道府県の位置と名称】

- 47都道府県の名称と位置について、正答率は約55%。住んでいる都道府県の位置の正答率は約90%、近隣の県の正答率も約70%と高い傾向。隣接する県との誤答(例:鳥根県に対して鳥取県を解答)や名称が似ている県の誤答(例:福井県と福島県)などがみられた。
- 47都道府県をまとめて覚えたり、白地図を使って学習した児童の正答率が高い傾向。

【方位・方角, 縮尺など】

- 正しい方位を選ぶ問題の正答率約67%に対し、地図上の地点から見た方角を選ぶ問題の正答率は約55%。縮尺の意味についての正答率約80%に対し、地図上の2地点の実際の距離を選ぶ問題の正答率は約68%。
- 授業で地図が出てきたときに、方位・方角や縮尺を確かめている児童の正答率が高い傾向。

【歴史上の人物と業績】

- 歴史上の人物と業績について、正答率は約70%。正答率90%以上の人物(卑弥呼, ザビエル, ペリー, 雪舟, 野口英世)がいる一方、同時代に活躍した人物が多い場合(例:幕末・明治の久保利通と木戸孝允など)や、分野が似ている場合(例:陸奥宗光と小村寿太郎など)、正答率が低い傾向。
- 教師が重点的に指導した人物については正答率が高い傾向。その際、児童に興味を持たせるエピソードを扱ったり、人物年表や人物事典作りなどの表現活動を取り上げるなど、指導を工夫していると回答。

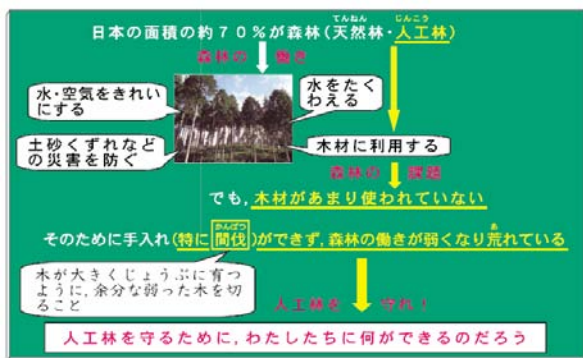
【政治】

- 「国会」「内閣」「裁判所」の働きについて、正答率は約50~65%(裁判所の用語を選ぶ問題は約90%)。日本国憲法の三原則について、正答率は85%以上。

問題例:「森林資源の保護」についての解決策を考える問題

<提示した資料の例>

●明さんたちが話し合ったあとの黒板



●みんなの話し合いの様子



(注)カートカン:間伐材を使用して作られたジュースなどを入れる容器

| 問題の概要 | 正答・準正答 | 誤答 | 無解答 |
|--|--------|-------|------|
| 事実に即して問題の解決策を考え、記述する問題 | 87.8% | 10.3% | 1.9% |
| 自分で考えた解決策の中から、よりよい方法を選択する問題 | 73.9% | 23.4% | 2.7% |
| 選択した理由を記述する問題 | 68.3% | 28.7% | 3.0% |
| 調べた事実と自らの知識・経験と結びつけて問題の解決策を考え、それを標語に表現する問題 | 62.9% | 31.5% | 5.6% |
| 標語の意図を伝える言葉や文章を考え、記述する問題 | 56.5% | 38.0% | 5.5% |

- 資料から、事実に即して問題の解決策を考えることはできるが、解決策を自らの知識や経験と結びつけ、具体的な取組やその効果までを取り上げて、表現することは不十分。
- ふだんの授業で、課題の設定、追究・解決、発表・討論などを行っている児童の正答率が高い傾向。

- 世界の主な国の名称と位置について、正答率は約60%。正答率が約90%の国(オーストラリア、ロシア、中国、アメリカ合衆国)がみられた一方、面積が比較的小さい国が集まっている地域(例:ヨーロッパ、中南米の一部など)の国などは正答率が低い傾向。
- 都道府県の名称と位置について、正答率は60%以上。
- 白地図を使って学習したり、国や都道府県の特色を学習した生徒は、正答率が高い傾向。
- 基本的な地理用語について、正答率は43~77%。類似語との混同などで意味理解が不十分なもの(例:「三角州」に対する「扇状地」,「季節風」に対する「やませ」や「偏西風」など)がみられた。

- 歴史上の人物と業績について、正答率は約80%。「伊藤博文」の正答率は小学校と比べて高い。(小学校:約40%→中学校:60~65%)。
- 歴史的事象が具体的であり、視覚的に理解しやすいもの(例:甲骨文字、古墳、金剛力士像など)や、用語から内容が推察され、内容をイメージしやすいもの(例:「刀狩」,「廃藩置県」,「富国強兵」,「冷たい戦争(冷戦)」など)は、正答率が高い傾向。
- 語意や概念が似ていて混同しやすいもの(例:「国際連合」に対して「国際連盟」,「武家諸法度」に対して「御成敗式目」,などの解答)は、正答率が低い傾向。
- 年表を利用したり、学習した内容を関係図にまとめている生徒は正答率が高い傾向。

- 「少子高齢化」「基本的人権」「領土」「平等権」などは正答率90%以上に対して、「社会資本」(用語33.4%)など正答率が低いものがみられた。
- 「国会」「内閣」「裁判所」の具体的な機関から用語を記述する問題の正答率は約60%。
- 新聞をよく読んだり、テレビのニュース番組をよくみている生徒は、正答率が高い傾向。

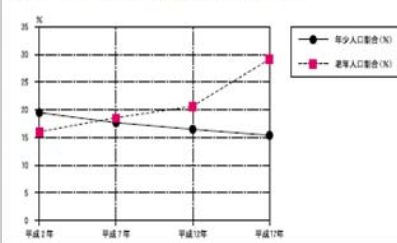
問題例:「身近な地域の調査」を通した、地域の課題についての解決策を考える問題

<提示した資料の例>

写真1 上空からみた調査地域の様子



資料4 斐川町の年少人口割合と老年人口割合の推移



資料7

● 農業の体験・探検

あぐり探検隊 (5.22)

約100名の小学生は、5月22日に斐川町の農業体験・探検を行いました。午前中は、農産物販売場の見学、2つの探検隊を設けて、探検を行いました。探検隊は、探検隊のリーダー、探検隊員、探検隊員を設けて、探検を行いました。

探検隊員は、探検隊員を設けて、探検を行いました。探検隊員は、探検隊員を設けて、探検を行いました。

探検隊員は、探検隊員を設けて、探検を行いました。探検隊員は、探検隊員を設けて、探検を行いました。

| 問題の概要 | 正答・準正答 | 誤答 | 無解答 |
|--|--------|-------|-------|
| 地形図や写真から課題を設定する問題 | 90.7% | 4.3% | 5.0% |
| 統計データから適切な円グラフを作成する問題 | 89.1% | 8.0% | 2.9% |
| 地図記号を読み取り、地形図に着色して分布図を作る問題 | 29.8% | 58.5% | 11.7% |
| 地形図や資料を読み取り、比較しながら分かったことをまとめる問題 | 41.4% | 54.0% | 4.6% |
| 資料から町がかかえる問題点を見つけ、資料を選択して具体的な町づくりのプランを提案する問題 | 82.0% | 13.6% | 4.5% |

- 地形図・写真などから農業の様子や土地利用についての地域の特色を見いだすことや、統計資料からグラフを作成する問題の正答率が高い傾向。
- 地図記号を読み取り、分布図を作ることや、農産物カレンダーなど複数の資料をもとに比較し、読み取ったことを表現する問題の正答率は低い傾向。

今回の調査結果と指導改善の具体策

調査結果における主な課題

指導の改善の具体策

小学校

《基礎・基本となる知識・概念》

- 47都道府県の名称と位置の正答率は約55%。
- 歴史上の人物と業績では、同時代の人物との誤答が多い。

《問題解決的な学習》

- 多様な資料の中から問題を発見・把握する力が不十分。
- 課題の解決策を表現したり、その理由を説明することが不十分。

- 地図帳の継続的な使用、白地図作業など多様な学習活動の工夫。
- 人物年表や人物事典作りや、歴史的事象と結びつけた、人物理解を深める指導の工夫。
- 資料を読み取り、関係付ける活動を通して、子どもの問題意識を醸成させる指導の工夫。
- 調べた事実をもとに考え、表現する学習機会の充実。

《基礎・基本となる知識・概念》

- 基本的な地理用語について、類似語との混同や意味理解が不十分。

《問題解決的な学習》

- 地形図や資料を読み取り、比較しながら、分かったことをまとめる力が不十分。

- 写真や地図上での確認や、地域事例に即した学習など、地理用語の定着を図る指導の充実。
- 地域調査などの作業的な学習を通して、収集した情報を地図化したり、分析したりする力の育成。

《基礎・基本となる知識・概念》

- 語意や概念が似ている歴史的な事象の正答率が低い傾向。

《問題解決的な学習》

- 複数資料から必要な情報を読み取り、総合的に解釈することに課題。

- 年表を利用したり、関係図にまとめる学習を通じた、歴史的事象の理解を深める指導の充実。
- 文書資料の読み取りや、必要な情報を選択させる機会を設けるなど指導の工夫。

《基礎・基本となる知識・概念》

- 用語としては知っているが、概念としての理解は不十分。

《問題解決的な学習》

- 自分の考えを根拠をあげて説明する力が不十分。

- 日常の社会生活の具体的な事象と関連付けた、知識や概念についての理解を深める指導の工夫。
- 資料を選択して多面的に考察し、生徒同士で伝え合うことを通して、論理的な思考や表現力の育成。

地理的分野

歴史的分野

公民的分野

中

学

校